

F-14 栄養との関連からみた食料費の研究一月別の変動について—
福岡県社会保育短大 ○出石 康子・松田 紀美子

目的 食料費の合理的な使用計画をたてるためには、よい栄養摂取がその根底になければならないが、食品の価格とそれに含まれる栄養成分の間に、はつきりした関係を見出そうとする研究が乏しかったので、食料費の研究の中で 摂取栄養との関連においてこれを考察したものはほとんどなかった。演者らは食料費の研究の中に、新しく栄養摂取の問題を導入し、これによつて食品の価格や選択が、それら食品に含まれる栄養と相まって、食料費にどのような影響を与えるかを分析的に検討した。

方法 国民栄養基準量(昭和45年を目途とした)にもとづいて、8種栄養成分にそれぞれ単位量を定め、家計調査報告を資料として、摂取した食品の価格と量から、各成分についてそれぞれ/単位量の平均価格を求め、これを用いて国民栄養基準量をみたすに必要な、標準的食料費を試算した。この方法によつて、昭和40年から45年までの6年間の、1月から12月に至る計12ヶ月についてその食料費を求め、40年の年平均を基準として、変化の実態とその原因を検討した。

結果 1. 食料費は各月一様ではなく、各年共2月と1月に凹部を、8月^にピークを持つ波状の線で表わされるような変動を示す。

2. 食料費は物価上昇の影響をうけて、40年以降年毎に増加しているが、44年、45年は殊に騰勢が強くあらわれている。

3. ビタミンA, Cの平均価格は季節的な変動が著しく、また年次によりやや異つた月別変動の傾向を示し、これら変動と食料費の変動との間の関連が目立つ。